学校番号	325

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	開隆堂「実践 情報Ⅰ」（開隆堂）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

本授業では、課題に対して自ら考え、他者やAIと協働して解決策を導き出す「探究型学習（PBL）」を中心に行います。 特に生成AI（Gemini等）については、単に「答えを教えてもらう道具」ではなく、自分の考えを広げ、ブラッシュアップするための「思考のパートナー」として活用します。特定の役割を持たせたGemを活用・作成するプロセスを通じて、AIの正しい特性とリスクを学び、これからの社会で不可欠なAIリテラシーを身につけましょう。 また、情報科として伸ばしたい「非認知能力（自律性・協働性・試行錯誤する力）」を重視し、授業ごとのふりかえりや単元のまとめを通じて、自らの探究プロセスを可視化していきます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
情報社会の仕組み、デジタル化、プログラミング、ネットワーク、データ活用の基本概念を体系的に理解し、目的に応じて情報技術（AIを含む）を適切に活用できる技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】
事象を情報の視点から捉え、問題解決に向けて情報デザインやアルゴリズム、モデル化の手法を選択・活用し、他者と協働しながら最適な解決策を論理的に考察し表現する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
情報技術の有用性を認識し、情報モラルやセキュリティに配慮しながら、未知の課題に対して粘り強く試行錯誤し、主体的に情報社会に参画しようとする姿勢を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	情報社会の仕組み、デジタル化、プログラミング、ネットワーク、データ活用、および最新技術（AI等）の特性について理解し、技能を身に付けている。	問題の発見・解決に向け、情報の結び付きを捉え、情報技術を効果的に活用して最適な解決策を考え、論理的に表現している。	自らの学習を振り返り、非認知能力の伸長を意識しながら、他者やAIと協働して、より良い問題解決や改善に向けて粘り強く取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	情報社会の問題解決	・非認知能力と情報科の学び ・情報デザインとピクトグラム制作 ・【PBL①】ソーシャルメディア PBL ・AI を「問い立て」のパートナーとして活用	a: メディアの特性をふまえ、問題発見・解決法や情報モラルを理解する。 b: 目的や状況に応じ AI を効果的に活用して問題を解決する方法を考え考察する。 c: 情報モラルに配慮し、主体的に情報社会に参画し解決を図ろうとする。	単元テスト プレゼン評価	単元まとめレポート プレゼン評価	制作実習 授業振り返り
2学期	情報通信ネットワークとデータの活用／コミュニケーションと情報デザイン	・情報のデジタル化原理 ・情報通信ネットワークの仕組み ・カスタム Gem の作成と AI 活用 ・データ活用と問題解決	a: ネットワークの構成や、情報技術が社会に果たす役割について理解する。 b: 情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と、望ましい社会の構築について考察する。 c: データを多面的に精査しようとする態度を持ち、主体的に参画しようとする。	単元テスト プレゼン評価	単元まとめレポート プレゼン評価	制作実習 授業振り返り
3学期	コンピュータとプログラミング	・コンピュータの仕組みと CT ・アルゴリズムの基礎とタイマー制作 ・【PBL②】micro:bit による課題解決 ・モデル化とシミュレーション	a: コンピュータやプログラミング、モデル化の基本原理について理解する。 b: 背景を科学的に捉えて考察し、情報技術を効果的に活用する方法について考える。 c: 問題解決に情報技術を適切に活用しようとし、粘り強く取り組む態度を持つ。	単元テスト プレゼン評価	制作実習 プレゼン評価	制作実習 授業振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度